



カトリック町田教会  
町田市中町3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

### いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て供え物を献げなさい。  
マタイ 5.23.24

## 人を植え替える神

主任司祭 小池 亮太

落葉樹と呼ばれる木が葉を枯らして枝だけになって死んだようになり、この時期に枝を剪定された木は、さらにみすばらしい姿になって寒風に晒されている冬の週末、あちこちでマラソン大会が開催されます。そのニュースを聞くたびに、高橋尚子さんの座右の銘である「何も咲かない冬の日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」

という言葉を思い出します。これは恩師から教わったものだそうですが、この素敵な言葉によって、私の中で植物と冬とマラソンがつながります。さて、「何も咲かない冬の日は、下へ下へと根を伸ばせ」とありますが、実際はどうなのでしょう……。冬に葉を枯らして地上に出た部分の活動を止める植物たちは、地下に

ある根の活動も最小限に抑えられます。ですから、その時期に水や肥料を与えずぎると吸い上げることができずに根腐れを起こします。逆に、植物を掘上げて植え替える場合には、この時期に根を切っておきます。根がほとんど活動していないので木に与える負担が少なく、春に木が活動を始めると新しい根を一齐に伸ばし始め、根付きやすいからです。

したがって、「目に見える結果が出ない時も、努力を続けていれば、いつか大きな成果を収める日が来る」という人生の真理を、冬の植物の姿に重ねた人は、冬に根を伸ばして養分を蓄えて、大きな花を咲かせる植物を実際に見ていたのかも知れませんが、植物の生態について詳しくなかった可能性もあります。

どちらにしても、決して自分の力で変えることのできない季節の中で、自分に与えられた場所で成長し、花を咲かせ、実を結んで枯れる植物と、人の一生は重なるように思えます。聖書にも次のような言葉があります。「人の生涯は草のよう。野の花のように咲く。風がその上に吹けば消えうせ、生えていた所を知る者もなくなる。」(詩編一〇三・一五〜一六)

人の一生は春夏秋冬のようであり、それぞれの季節の中にも入れ籠のように、また四季があります。人がこの世に生まれ出て、心と体の栄養をどんどん取り込みながら成長してゆく時期は、まるで種から芽を出した植物が、柔らかい葉や茎、根を伸ばして成長してゆく春のようです。やがて夏になって、枝や葉がしっかりとすると、花を咲かせる時がきます。誰の人生にも、美しい花のように、周りの人をハッとさせるような瞬間が必ずあります。

秋になると、花の後にできた果実や種が熟し、実りを刈り入れる季節になります。人生においては、新しい世代が生まれ、今までの自分の苦労が報われる喜びの時にあたるとして、冬が来ると、植

## 一年を振り返って

運営委員 鈴木 節子



この一年、えいやつと木登りをした豚は、皆様から差し出された梯子でなんとか降りて来られました。見渡せば聖

物は葉を自ら落として活動を止め、死んだようになり、それは、新たな場所に植え替えられるための準備の季節でもあります。人も生涯の終わりが近づくとつれて、多くのものを様々な理由や形で手放す時が訪れます。しかし、人の死は、神の国に植え替えられるために、この世に張った根が神によって切られる時とも言えます。それは、冬が終わって春が来ると、新しい場所に植えられた木が新しい葉と根を伸ばすように、この世が完成された時に、人も神の国で新しいのちをいきいきと生きるようになるためなのだ……。風がヒューヒューと鳴る葉の無い枝越しに、冷たく輝く月を見上げながら、このようなことを考えていたのです。

堂の内、外、あちらこちらの一つ一つが信徒の方の手によって整えられ準備されていることに気づきます。長寿感謝の日、秘蹟を求めて長い列が出来、そのひたむきな姿に心を打たれました。府中墓地墓参では懐かしいお名前を目にし、献堂式の頃やさらにもっと以前の日々とた





でした。恒例の行事は参加者全員から寄せられる1分30秒スピーチです。普段なかなか聞く機会のない方からのお話が多々あります。近況報告、新年の抱負など、中でもヨゼフ会の先輩諸氏から戦前戦後の教会を取り巻くエピソードが披露されると、会は盛況となつてきます。

話が多少前後しますが、ヨゼフ会新年会の行われる場所はいつも信徒ホールです。旧聖堂の時は司祭館（木造）の中に信徒ホールがありました。今と違い本当に貧しい建物でしたが、神父様を囲んで賑やかだったのは今と同じです。その頃は必ず鈴木靖三さん（昨年帰天）のハモニ力演奏

があり、奏でる旋律は当時の参加者の記憶に今でも深く刻み込まれています。そんな話の今回特に残ったのは、参加者の中から「ミサの聖体奉仕者になった」という報告があり、他の参加者からひときわ大きな拍手が寄せられたことでした。乾杯。

司祭召命への関わり

橋村 元雄

平素は一粒会の活動にご支援いただき感謝申し上げます。一粒会は、2012年度に教区司祭を養成する日本カトリック神学院神学生40名の授業料や生活費の援助および24の修道会・宣教会神学生58名に支援金を贈呈しています。東京教区の神学生は6名在籍し、3名は6年生（助祭）で今年叙階の予定です。残りの3名は2年生で、1年生や入学予定者はおらず、危機的状況にあると聞いております。

さて、一粒会の名称の由来をご存知でしょうか。小さな粒を毎日一粒ずつ貯えていく実行、しかも行いを長続きさせるということを考慮に入れたの命名」とのことです。

かつて町田教会は積極的に司祭召命のための活動を行っていたと聞いております。町田教会が司祭召命にどのよう

に関わって行くか、召命の召し出しを願う祈り」を通して考えてみて下さい。

**ワンポイント聖書**

(190)

前島 誠

「父よ、彼らをお救ください。自分が何をしているのか知らないのです」 (ルカ23章34)

イエスが十字架につけられたのは、「朝の九時頃」だったとマルコ福音書が記している。処刑開始の時刻についての福音書の記録はこれだけだ。死亡時刻は共通して、午後三時頃（ヨハネには記録なし）とある。この間、イエスは苦しい息の下から、七回にも亘って言葉をもらされた。

(1)「彼らをお救し下さい。何をしているかわからないのです」(ルカ23章34)

(2)「はつきり言うておく。お前は今日わたしと一緒に楽園にいる」(同23章41)

(3)「見なさい、これはあなたの息子だ」  
「これがお前の母だ」(ヨハネ19章26)

(4)「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」  
わが神、なぜ私を見捨てられたのか (マタイ27章46、マルコ15章34)

(5)「わたしは、渴く」(ヨハネ19章28)

(6)「成し遂げられた」(ヨハネ19章30)

(7)「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(ルカ23章46)

現在エルサレム市の郊外に、ヤド・ヴァシエム「手と名」という奇妙な名の館がある。この名称はイザヤ書の句から取られた。わが家のうちで、わが壁のうちで、子どもたちにも勝る手と名を与える。切り捨てられることのない名を与える。

(イザヤ書56章5)

手はその人の業、名はその人が生きていたという事実。まさにその人との出会いの「場所」だったのである。

2012年度 一粒会 献金実績 (円)

1月	105,200	7月	80,200
2月	126,650	8月	76,400
3月	118,100	9月	141,550
4月	98,220	10月	82,850
5月	104,500	11月	102,400
6月	110,250	12月	154,680
		合計	1,301,000



聖体奉仕者研修 (1月20日) 汚れなき聖マリア修道会にて



2013年1月13日 成人式 おめでとう!



クリスマスお泊り会  
(12年12月8、9日)  
ツリーの飾り付け、ケーキ作り、  
プレゼント交換、ゲーム大会等で  
楽しいお泊り会



秋の夕日  
に……月



ウエルカムテーブル  
紅葉狩り (12年11月22日)  
岡野さんの指揮で合唱

### 図書紹介

2011年5月以降に登録された図書、DVDの抜粋です。  
ご利用をお待ちしています。 図書係:横塚千枝子

- |   |  |
|---|--|
| ハイチ復興への祈り 80歳の国際支援<br>人の思いを越えて 日曜日の説教集<br>福音のこだま 聖者の黙想<br>これからの教会のありようを考える<br>ようこそ天の国へ、わたしは救われた(説教集)                                  | 須藤昭子<br>森一弘<br>森一弘<br>森一弘  |
| だいじょうぶだよ(詩集)<br>美しい出会い 道一筋の人々を訪ねて<br>完本 戒老録<br>イエスへの旅、私の中のキリスト<br>きっと咲いてね 幼児教育の手引<br>ナザレ派のイエス<br>死にゆく者からの言葉<br>ふしぎなキリスト教<br>ガリラヤのイエシュ | 晴佐久昌英<br>晴佐久昌英<br>木崎さと子<br>曾野綾子<br>井上洋治<br>西原勝子<br>前島誠<br>鈴木秀子<br>橋爪大三郎&大澤真幸<br>山浦玄嗣 |

- |  |   |
|--|---|
| パチカンの聖と俗 日本大使の1400日<br>希望の扉を開く 教皇ヨハネ・パウロ二世                                     | 上野景文<br>三浦朱門&曾野綾子訳<br>聖書美術館(1)~(4) 旧約 新約 現代美術   |
| ミサを祝う 最後の晩さんから現代まで<br>現代の荒れ野で 悩み迷うあなたと共に<br>置かれた場所で咲きなさい<br>カトリック教会のカテキズム      | 毎日新聞社<br>国井健宏<br>岡田武夫<br>渡辺和子<br>日本カトリック司教協議会監修 |
| カトリック教会のカテキズム要約<br>神の国をめざして 私たちにとっての第二ヴァチカン会議<br>十字を切る<br>寅さんとイエス<br>日だまりに 詞華集 | "<br>松本三朗<br>晴佐久昌英<br>米田彰男<br>女子パウロ会編           |
| = DVD紹介 =  |   |
| サン・ジャック(サンチャゴ)への道<br>ルルドの泉で<br>神々と男たち  |   |

### 信者動静

2012年12~2013年3月  
(個人情報のため、削除しています)

掲載写真について  
広報では、典礼上の諸行事(洗礼、初聖体等)を始め、各種催しの写真をご提供いただき紙面で活用するとともに、CD化したものを保存しています。多くの素晴らしいショットがありますので、ご利用(個人的用途も含め)を希望される方はいつでも広報担当者までお申し出ください。  
「雷の子」次号編集会議予定  
4月7日(日)09時30分  
於会議室

犠牲献金	
中高生会	
12月	7,178円
(ペロニカ苑へ)	
1月20日	6,466円
(ペロニカ苑へ)	
2月3日	17,527円
(ペロニカ苑へ)	